

「地元との信頼関係が第一」 移住サポート団体と議会が懇談

6月16～19日、市議会は市内で移住サポートを行っている4つの団体と懇談し、移住者の受け入れの状況や運営にあたっての苦労話などを聞きました。

このうち、安塚区の「お試し移住シェアハウスわっしょいハウス」では、運営交流団体わっしょいハウス倶楽部の中村真二代表と地元朴の木集落の二人のみなさんに話を聞きました。

地元からは、「安塚ではこれまでも空き家を利用した移住の取組があったが、地元になじめずに去る例が多かった。こうしてお試しで地元になじむのは大事」「運営の中村さんは集落の道普請にも参加したり隣集落とのイベントで活躍したり、地元になじんでいる。期待している」との声が出され、地元との信頼関係が何よりも大切であることがわかりました。

中村さんは、「倶楽部は市内全域での移住受け入れを考えている。人間関係を作る中でここが見つかった。大浦安ではどんどん施設がなくなっている。その反面、刀や体操アリーナに大きな金を使おうとしているのはやるせない。地元の住民は寂しさを実感している」と語り、市政の方向に一石を投じました。

そして、「今後、中心市街地と中山間地の連携を図っていきたい」と意欲を語りました。



30人以上が核廃絶めざして行進

直江津↓高田を歩き通し、妙高市へ

妙高市関川の県境で長野県へバトンタッチ

核兵器の廃絶をめざして、全国からヒロシマ・ナガサキをめざして歩く平和行進の一行が、6月30日、上越市、妙高市を通り、市内の行進参加者とともに直江津から

高田まで歩き通しました。直江津の海浜公園での出発式では、新潟県平和行進実行委員会の赤井純治代表(新大名誉教授)が、「国連の核兵器禁止条約は、議論が盛り上がり、このほど『核兵器による威嚇の禁止』と『核兵器廃絶』が盛り込まれた修正案が示されるまでになってい

また、挨拶に立った上野公悦議員は、「日本は唯一の被爆国として核兵器禁止条約を真つ先に進めなくてはならないのに、安倍政権は逆に背を向けている。この安倍政権をみんなで倒そう」と訴えました。



る。また、長い間原水協と原水禁の二つの運動の流れがあったが、県内では互いにエールを送り合い、協力して取り組む流れになってきている。県内各地では、北朝鮮のミサイル等の動きに対して避難訓練などが行われているが、隠れるのではなく、街頭に出て『核廃絶』を訴えることが、世論を動かして北朝鮮をはじめとする核保有国を包

直江津から高田までの行進では、宣伝カーのリードに合わせて参加者全員でリズムに乗ったピースコールで、道行く人に核兵器廃絶を訴えました。



渡辺議会事務局長から募金を受け取る赤井代表

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 553 2017年7月9日

連絡先
橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)